

第72回「資本論を読む会」

(新規参加歓迎!) ☆2月27日(木曜日)

・午後6時30分からーZoomで開催
資本論(v2) 第1章第3節「第四段階 総循環」
(討論)と「第2章生産資本の循環」(読み合わせに入る) [岩波文庫(四)p94-]。

新年第1回の「資本論を読む会」は1月29日に開催、参加者は12名でした。第1章「貨幣資本の循環」の2回目で、前回報告したように定式「 $G-W-G'$ 」が登場して「第1巻1節『資本の一般定式』の復習みたいなものでした」と書いたのですが、「式は分かるのだが、マルクスの言っている解説・説明?がチンプンカンプン」と、おかしい議論になってしまいました。今回は「第三段階。 $W'-G'$ 」の解説で、「 $W'=W+w$ 」、「 $G'=G+g$ 」と価値増殖されるという話ですが(だと思うが、簡単すぎるかな?)。レポーター(Takちゃん)が後日、こういう解説を加えて送ってくれたので紹介しておきますね。

「第1巻はマルクスは何度も精査して、『マルクスとしては』、読者に気を遣って『わかりやすく』書いている。でも、第2・3巻はそこまで精査していない草稿文章なので、マルクスは自分でわかるレベルの『自分の理解の仕方での表現』、弁証法的哲学的表現になっているようです。なので、3・4節は、マルクスの草稿の『経済学批判要綱』のタッチと同じような印象を受けます。特に、『重要なポイント・結論』を説明するところで、その傾向は強まる感じがします。」と書いてくれました。

ということで、今回は第3節の討論で終わったので、次回は第4節の討論(読み合わせは終わっている)と、「第2章生産資本の循環」(読み合わせと討論)に入ります。

学習会後の懇親会でも「第二巻に入ってから難解さ」が話題になりましたが、その後はやはり総選挙などの話題が中心になったように思います。恒例で、とりとめもなく議論が続き、適当に解散となりました。「読む会」は、いつから、どこからでも参加しても大丈夫!新規参加歓迎。

今からでも一緒に読んでみたいという方は、近くの誰かに連絡ください。歓迎します。

☆「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/> 「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

レポーターから-Takちゃん-

第三節 第三段階。 $W'-G'$

生産過程で増殖した資本価値である商品は、商品資本となる。売られ貨幣転化しなければならない。

品が資本として機能しうるのは、 $W-G$ が始まる前に、すでに資本性格をもっていたからである。

つまり、総商品価値 W' は $W+\angle W$ に等しい。

流通行為の「商品から貨幣」への単なる形態転化は、個別資本にとっては、資本価値 P と剰余価値 g の実現である「商品資本(から貨幣資本へ)の転化」である。

生産過程でも資本の価値量からは独立した制約(結合生産での生産手段の節約等)が働いたが、流通過程でも資本価値量に依存しない資本の作用度の膨張・収縮がある。

開始と終局が貨幣資本の形態なので、貨幣資本の循環と呼ばれる。形態は同じで、その量のみが終局において変化している。

資本価値と剰余価値に分離された一定の貨幣額 G' の特徴

※ g のうちどの程度が前貨幣資本 G に加算されるかが再生産過程では重要となる

※ G と g は量的にも経過した運動でも差異があるが、それは消失して G' として一体化し、保存された G と増加した g という質的關係にある。これは資本関係である。しかし両者には、媒介過程が消失した資本関係というだけの、「無概念的区別」しかない。

※この「無概念的区別」も、 G' が再生産の第一段階・出発点の貨幣資本 G になると消失する。

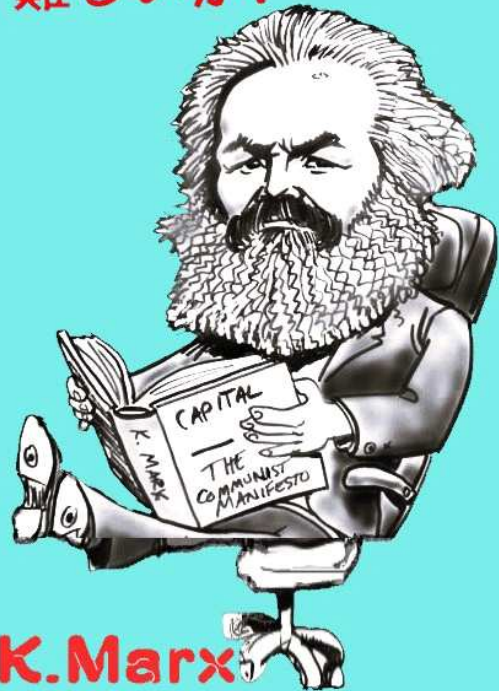
※ G' と表示するのは、貨幣資本の能動的機能ではなく、むしろ商品資本 W' の一機能である。

※ G' の2概念は、資本家の消費を含まず、ただ貨幣資本の自己増殖を含むにすぎない。

※第一段階の G は貨幣として流通する「資本の貨幣形態」だが、第三段階の G' は貨幣形態で資本を表現する「貨幣形態の資本」である、という区別がある。

DAS KAPITAL

難しいか?



K.Marx